

一步もせず、具体的に解説している。この著述の態度の相違は、出版当時の表題と、ドゥザークの仏訳の表題とにおける両書の主客の逆転とともに興味深く、しかもおそらく重要である。

巻末の訳者解説は、宗教学、心理学、文学、図像学、科学史、精神史等のそれぞれの立場からアプローチされているヘルメス哲学―錬金術の、現在における最大公約数的な理解を簡潔に、てぎわよくまとめとり、良質の解説である。図版中、出典不明となっている一五一ページのものは、V・VII・Xの図版同様、Elias Ashmole, *Theatrum Chemicum Britannicum*, 1652, p. 102 にみえる。

(B 6判 二四〇頁 一九七七年五月 白水社
(「ルメス叢書」) 二、〇〇〇円)
(川島昭夫 京都大学大学院生)

竹田聴洲博士還暦記念会編

『竹田聴洲博士
還暦記念 日本宗教の
歴史と民俗』

介
本書は、同志社大学文学部教授竹田聴洲先生の還暦を記念して、一九七六年一二月

に刊行されたものです。

竹田先生は、一九一六(大正五)年大阪市に生まれ、一九三七(昭和一二)年京都帝國大学文学部史学科に入学、四〇年には同大学院にすすまれました。その後兵役により大学を離れられましたが、戦後復員とともに大学院に復学、御研鑽を積まれました。一九五四年からは同志社大学に勤務され、六〇年に同大学文学部教授に任ぜられ、現在にいたっています。また、この間、三〇年近く講師を続けられている仏教大学をはじめ、関西大学・花園大学・京都大学・大阪府立女子大学・北海道大学等でも教鞭をとられ、多くの学生を指導してこられました。

先生の学問は、歴大な在地史料・民俗資料を駆使して、日本の歴史的社會における宗教の意義と役割を、地域の人々の生活に密着したものとして解明しようとするものであります。そしてそれは、『民俗仏教と祖先崇拜』(東大出版 一九七一年)『近世村落の社寺と神仏習合』(法蔵館 一九七二年)をはじめとした著作・論文に結実し、大きな成果を収めています。先生は、今なお前に増して、広範な学問領域にわたって、旺盛な研究活動をすすめています。

本書は、これまで様々なかたちで先生の学問にふれ、共に切磋琢磨し、或は指導をうけた、関係者・受講生の有志による献呈論文集です。冒頭に、竹田先生の論稿があり、以下二四本の論文が歴史篇・民俗篇の二部にかけて収載されています。何分多数ですので、以下タイトルのみ紹介しておきます(副題は略しました)。なお巻頭には、竹田先生の略年譜と上梓目録が掲載されています。

近代民間寺院の生熊系……………竹田 聴洲
歴 史 篇

檀越について……………五島 正樹

『延暦僧録』聖武天皇伝と国分寺建立

……………中井 真孝

石清水八幡宮創祀の背景……………小倉 暎一

不動尊信仰の伝播者の問題……………田中 久夫

屠牛者致……………西田 円我

僧伝における史実と説話……………成田 俊治

朝日山信寂と浄土宗播磨義……………蘭田 香融

浄土宗初期の付法について……………玉山 成元

生馬山竹林寺の開創伝承考証

……………長谷川 嘉和

近江国得珍保今堀郷の村掟……………仲村 研

南都極楽坊をめぐる信仰の一背景

伊藤 久嗣

宝暦年中島羽法伝寺

宗義出入一件について.....平 祐史

近世村落と真宗道場.....大桑 斉

横井金谷と円光大師伝.....石丸 正運

学天の巡錫と遷化をめぐる史的考察

野田 秀雄

民俗篇

ケルト民族の八朔とその他の季節祭

横田 健一

屋敷付属の墓地.....高取 正男

家と墓の一考察.....上井 久義

対馬の両墓制及び両墓制に

代るものについて.....赤田 光男

真宗地帯の風俗.....児玉 識

三昧聖の墓地開創伝承.....伊藤 唯真

尾張地方におけるシャグジ信仰

加藤 参郎

女装の民俗覚書.....野沢 謙治

「世直し」の原義.....宮田 登

(A5版 五三三頁 一九七六年二月)

発行・竹田聰洲博士還暦記念会 制作

代行・隆文館 (頒価四五〇〇円)

(倉地克直 京大助手)

お詫びと訂正

前号第六〇巻五号の表紙裏、日本資料刊行会の広告において、改訂増補菅浦文書、上下巻の揃定価が一、二〇〇円となっておりますが、一二、〇〇〇円の誤りです。謹んでお詫びし、訂正いたします。

編集後記

長かった残暑も終り、ようやく本格的な秋がやってまいりました。六〇巻六号をお届けいたします。本号は、力作揃いの論説四本、書評三本、紹介三本に、口絵四頁を加え、質量ともに重厚なものとなりました。御検討下さい。

本号を含め、六〇巻の各号は、全て定期に発行することができました。今後とも、論説は勿論、研究ノート、書評等も含め、多数御寄稿いただきますよう、お願いいたします。

なお、本誌の出版に対しては、幸いにし、昭和五二年度も引きつづき文部省科学研究費補助金(研究成果刊行費)が交付されることになりました。しかし、昨年来会費を据置いているため、諸経費の値上りに

よって、今後会財政は相当苦しくなることが予想されます。会員各位におかれましては、会費の納入について、どうか一層の御協力を賜わりますようお願いする次第です。『史林総目録』の作成は、特別号を担当した委員の努力によって、おお詰めを迎えております。年内には、皆様のお手許に届く予定です。また長らく編集に携わってこられた久武哲也氏が、この度、甲南大学に御栄転になり、新たに石川義孝氏が編集に加わられたことを、お知らせいたします。(足立)

史 林 (第六〇巻第六号)

一九七七年十月二十五日印刷 定価七五〇円
一九七七年十一月一日発行

発行人 史 学 研 究 会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部

理事長 佐 藤 長

振替京都五一五五番

印刷所

中村印刷株式会社

京都市下京区七条御所ノ内町五〇